

2008年記録会は6月15日(日)グリーンパーク(9:00~12:00)です!

2008年記録会は7月20日(日)グリーンパーク(9:00~12:00)です!

今年の問題は、今秋はたして大宮田んぼが使えるか?です。自分が死ぬぐらいまでは大丈夫!とたかをくくっていましたが、その田んぼが危なくなってきました。大宮田んぼにお世話になって25年以上、田んぼの地主も世代交代や耕作方法の違い等あって、手込めで使用してきた田んぼが波乱含みです。田んぼがなくては生きて行けないヒコーキ屋の死活問題ですが、勝手に言っているのは我々の方なので、どうすればイイのか。「みんな、私が悪いのよ」では済まされないので、どうか理屈を付けて使わせて貰わないと生きてゆけません。

じっとしていても仕方がないので情報収集をしたり、地図を調べたりしていますが、日本は狭いので、見つかったとしても荒地や湿地帯です。しかし使える所があれば真剣に考えねばいけません。

農閑期になれば千葉方面はいくつか候補地がありますが、東京西部や横浜方面からは遠く、競技会には不向きでしょう。どこで飛ばすにしても、今後は1ヶ所に集中しないように、なるべくバラケテ練習する等工夫も必要でしょう。

## 記録会報告

2008年4月、5月記録会HLG/PLG、

08年新潟大会報告

長浜ドーム報告 石井満

08年平城京大会報告 高田富造

## お知らせ

新潟夏期合宿案内

まったけ大会案内

## FFサロン

CLG機の問題2 石井英夫

苦情を好機として 倉田泰蔵

小型UHLGの紹介

## 雑談天国

「ひれ」・stupidcat

## 編集後記

## 2008年4、5月記録会の結果 (HLG/CLG)

### 4、5月HLG記録会報告

平尾……

4月記録会は4月20日天気予報ではやそうだったが、現地に行くどけこうな風、朝飯を食べて解散となった。しかし、諸般の事情から順延はせず5月の記録会でランチャンとすることとし、5月18日グリーンパークで2ヶ月分まとめて実施した。

#### \* 4月分

この日幸いにしてベストコンディション、しかし紙飛行機の競技会と重なってグリーンパークは100人を超す人の海。これでは飛ばす場所も選ばねばならないので、4月+5月分を5投+5投の短縮競技とした。この日は異常なほどの無風。公園用HLGは小型機が多く、その為ほとんどがデサ無してサーマルに入っただけの「ハイ、さよなら」です。それが恐くて、何とか40秒で降ろそうと皆さん苦労していた。だが、その努力もむなしく7~8機はもっていかれたようだ。

5投/5投の全タイムの合計競技となれば、やはりきびしい。この日、どうも違反っぽい機体を飛ばしていた大八木選手が178秒をたたき出して優勝、平均タイム35秒強は立派。ついで高性能な小型フラップ翼UHLGを駆使する平尾が171秒を出して2位、3位はパワーにものを言わせた井村選手の167秒、4位は室内機使用のUHLGを飛ばして164秒の石井満選手、高度は凄かったが滑空の遅い機体が気流にたかれて記録が伸びなかった。5位はこれも肩のイイ稲葉選手、1マックスで145

秒、6位は紙を飛ばしていた木口選手、高度がスバラシイ。7位は不慣れな野球投げ機を飛ばしていた三田選手、どう跳ね回ってもUHLGの様にはいかないよな…。8位はこれも紙を飛ばしていた地主の吉田選手、こちらはヒコーキが不調でした。9位は肩を壊している菅野選手、10位は下手投げの今関選手、まだ肩は壊れたママのようです。4月分の記録では最高が178秒、10位で115秒、その差は63秒です。最低の記録は62秒。

**\* 5月分**

さて、同日実施の5月記録会は、1時間半程度の時間差で成績がどう変わったのか…。1位に井村選手が来た。但し、成績は4月時よりも13秒悪く154秒でした。2位はアレ、大八木選手だ、やはり大きい飛行機は飛ぶのかな…。しかし、これも28秒もダウンの150秒。3位は紙をシッカリ高々度に上げていた木口選手、成績は+7秒の147秒、4位は稲葉選手、記録は145秒と4月とそろいです。

5位は石井満選手、室内機は室内機なのですね、おそらくは日に照らされて機体に変化したのでは…。6位は機体が狂ってきた平尾の135秒、気が付くのが遅すぎました。不思議な事に、ここまでは4、5月とも同じ選手が入替わっただけでした。7位少し調子が上がってきた菅野選手の133秒、8位はヒコーキ人生を再開した田中選手、久しぶりのチビタが高度抜群、ワカイ!!!

9位は木立選手、イイヒコーキなんだけど本番になるとキンチョーしてソッポに飛ばす悪い癖、ポチポチ慣れねば。10位は今日も遅れてきた久保選手でした。その他では、池田氏と石山氏がこの日来ていたのに「肩が痛い」とか、または紙ヒコーヘキの大会でエネルギー消耗して不参加となりました。

5月の記録は最高が154秒、10位で123秒、その差は31秒、最低の記録は74秒。記録から見ると熟練度が上がるはずの5月分の方が記録が悪い。その原因は気流ですかね。競技の時間差はセイゼイ1.5時間なのですが、これだからFFヒコーキは止められない。

**4月HLC記録 5月18日グリーンパーク 晴 20度 微風 40秒MAX 5/5投**

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	大八木重信	37	40	40	33	28						178			178
2	平尾寿康	40	32	23	36	40						171			171
3	井村真三	27	36	40	33	31						167			167
4	石井 満	24	33	40	40	27						164			164
5	稲葉 元	27	29	40	27	22						145			145
6	木口雅之	23	30	24	40	23						140			140
7	三田祐一	15	27	09	40	40						131			131
8	吉田利徳	30	32	22	14	25						123			123
9	三俣 豊	18	19	15	40	28						120			120
10	菅野俊行	24	40	21	11	21						117			117
11	今関健一	22	24	18	26	25						115			115
12	木立猛彦	40	23	08	07	28						106			106
13	田中 晋	24	20	24	33	04						105			105
14	北村貞史	17	18	19	30	04						97			97
15	星野 聡	17	15	17	18	15						82			82
16	久保晃英	03	16	16	09	18						62			62

**5HLC記録 5月18日グリーンパーク 晴 20度 微風 40秒MAX 5/5投**

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F 2	F3	総計
1	井村真三						24	40	24	37	29	154				154
2	大八木重信						35	28	40	17	30	150				150
3	木口雅之						38	23	24	22	40	147				147

4	稲葉 元					40	38	18	28	21	145				145
5	石井 満					17	22	40	25	33	137				137
6	平尾寿康					40	22	22	36	15	135				135
7	菅野俊行					21	22	37	21	32	133				133
8	田中 晋					27	21	23	18	40	129				129
9	木立猛彦					17	26	40	28	15	126				126
10	久保晃英					31	22	40	19	11	123				123
11	三俣 豊					10	22	21	18	36	107				107
12	三田祐一					17	13	26	18	20	94				94
13	吉田利徳					12	11	11	34	12	90				90
14	星野 聡					06	13	18	19	25	81				81
15	今関健一					14	04	24	04	18	74				74
16	北村貞史					02	26	15	-	-	53				53

#### 4. 5月 PLG記録会報告

河田・(平尾)……

今月から数ヶ月は、ゴム1g スティック40cm、40秒MAX、の公園での競技となります。4月度は5投のみでその合計を競う方式をトライしましたが、呆気なく終了したという声が多かったので、5月度は10投中上位5投の従来方式で行いました。

グリーンパーク特有のきまぐれ気流で失速しダイブしにくいHLGをまねたPLGをトライしてみました(1機のみ製作、昇天しました)。主・尾翼の取付角差(0-0)を少しプラスにして、テールモーメントをトレーナー機より小さくした機体です。打ち上げの高度で約3/4行程までは上下角約80度でほぼ直線上昇し、残り行程はループで返すやりかたです。トレーナー機と比べて取得高度は5~10m低いですが返りは安定していて、滑空中の乱気流には少しは強そうです。取付角差とテールモーメントの最適地がありそうに見えました。2gゴム、60秒MAX競技には通用しないと思います。やはりトレーナー機がベストです。4月度は公園に強い工藤さんが優勝しました。5月度は光が丘の斉藤竹彦さんが連続4MAXを出しながらあと1つが出ない。残念2位でした(以上河田)。

見ていると皆さん、回収が心配なくらい高く打ち上げてました。PLGはほとんどノーデサですから、あれで気流に乗るとすぐサヨナラです。公園競技は40秒マックスですから、この辺りが悩ましいところです。作戦としては、機体をやや大型化して高度を犠牲にして、確実に40秒超をねらう手もあると思います。大宮田んぼ用と公園用に分けて考えて、大宮田んぼ用はトレーナータイプの高々度垂直上昇型、公園用はやや大型機で過安定のスクリークーク上昇と、敢然と分け隔てをすると合理的だとも思います。

#### 4月 PLG記録 5月18日 グリーンパーク晴 20度 微風 40秒MAX 5/5投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	10	合計	F1	F2	総計
1	工藤陽久	40	32	40	40	40						192			192
2	河田 健	40	34	40	40	29						183			183
3	斉藤竹彦	40	30	37	24	40						171			171
4	嘉部 保	26	31	40	40	27						170			170
5	林 善明	24	40	40	39	26						169			169
6	倉田泰蔵	25	27	36	40	27						155			155
7	原 国光	24	37	40	22	28						151			151
8	吉本恭一	24	30	31	22	40						147			147
9	斉藤勝夫	28	05	20	18	23						94			94

5月 PLG記録 5月18日 グリーンパーク晴 20度 微風 40秒MAX 5/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	10	合計	F1	F2	総計
1	河田 健	29	40	33	34	39	40	40	40	40		200			200
2	斉藤竹彦	40	40	40	40	33	19	38	32	24	29	198			198
3	工藤陽久	34	40	15	08	40	36	34	40	28	40	196			196
3	原 国光	34	40	15	08	40	36	34	40	28	40	196			196
5	嘉部 保	40	35	40	29	28	24	32	32	24	34	195			195
6	林 善明	25	40	30	40	40	32	33	29	31	30	185			185
7	吉本恭一	40	37	27	25	30	18	40	32	33	31	182			182
8	倉田泰蔵	40	40	19	32	31	23	32	32	24	34	178			178
9	斉藤勝夫	25	28	26	14	25	22	25	06	29	30	138			138

## 2008年新潟大会報告

平尾・・・

3年目になる新潟大会、今年は最高のヒコーキ日和に恵まれ、のんびりムードでいつ本調子になるのかが心配なほど。まさに地方大会の良さが出てイイものだ。参加者は少し減ったものの、グライダーとゴムは、それぞれ10名以上と盛会であった。ただし、常連の名古屋の伊藤勝氏、大阪の宇津さん、関東の岩田さん等が欠席で少しさびしい。年々高齢化が進んで千葉方面からは、私たった1人で往復800km走行。行きはヨイヨイだが復路は1人ではダンダンきびしくなる。新潟の競技運営もすっかり慣れて、頼もしい限りである。てなこと言っ、選手は楽しむばかりでは悪いような気もするが、楽しい競技会でした。

### 1. F1A・グライダー

関西の高橋、生駒の両選手が欠席だったが、ま・精鋭がそろった。今回のグライダー競技は、今ひとつ緊張感がなく(みんな、隠していた?)和気藹々として、ズルズルと進行した。それに、これだけ気象条件が良いと詰まらないことドジると負けである。5ラウンドまでオールマックスの山本、大矢選手の両選手は6ラウンドを2人そろって落とし、しかも2桁台はイカンよな。競技がバタバタになってくるとジリジリと上がってくるのが和田選手、本調子ではないものの3位に来た。2位は最近練習熱心な田久保選手3ラウンド以外はマックスをそろえたが、3ラウンドの13秒は何とももったいない。湘南(使用に難ありではなく)の熊井選手が1ラウンド以外は見事にマックスを続けて優勝をさらった。櫛引選手は1,2ラウンドは落としたものの3ラウンド以降オールマックスとするも、今回はツキなく入賞を逃した。中澤選手はまだ積年の仕事の疲れが残っているご様子で、今回は元気なく100秒にかろうじて乗っけたのみ。

### 2. F1B・ゴム動力

今回の新潟は田んぼも固く暖かく、飛行の見通しも良く安心して飛ばせた。世界選経験者が13人中6人もいるゴム動力機競技は、老練(老齡?)な常連の戦いとなり優勝候補多数。しかし、ここは意外とサーマル読みが難しいので、いかに慎重に、且つ大胆に勝負するかの戦いとなった。最後は丈夫な身体と太い(ニブイ)神経の選手がカツ。

まず第1ラウンドの240秒マックスは13人中10人が通過、すごいな、コワコワ。しかし、2ラウンドでその内の2人が落とし、3ラウンドで1人脱落、4ラウンドは波乱なく5ラウンドで1人落ち、6ラウンドは波乱なしで7ラウンドで2人が脱落し、結局残ったのは中田、菅原、田岡の3選手のみとなった。

フライオフは風上に場所を移して、時間の関係で7分マックスの1発勝負となった。競技開始後すぐ、中田、田岡の両選手がほぼ同時に発航、中田選手は7分マックス、田岡選手は半分の210秒となって1位と3位に分かれた。この違いはVISの効きぐわいで、ユラッとわずかに揺れた田岡機がいけない。発航1パッ目をドジッタ菅原選手はやや遅れて発航、それが幸いして31秒で2位となった。

あと、3秒落ちの西沢選手が4位、32秒落ちの坂巻選手が5位、初参加の榎本選手は5ラウンドを

落とした物の6位は立派な成績である。

これだけコンディションがイイト風の勝山選手」は本領発揮が出来ず10位、しかしバルサ機が悪いのではないよ！他に3選手ほどが機体回収で手こずり脱落した。新谷選手の機体は、発信音はあるものの、藪が深く未回収となつたらしい。残念だ！！津田選手は足をくじいたとか、しかし大事にはいたらなかった由。ドジョウはアチコチにいたのだが、そうカンタンには捕まらないわな。

### 3. F1C・エンジン機

世界的な傾向でF1Cの参加者は減少中。日本でも飛ばせる環境は少なく、そのせいか今回も参加者は関沢、増田の2選手のみで気楽に、と言ってもキンチョーするけど、他人が喜ぶ見せ場もなく(墜落mせず・・・)、それぞれ7ラウンドを飛ばした。これで今年の選手権はダイジョウブだ！

F1A成績 注:1Rは210秒マックス、2R以降は180秒マックス

順位	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	F1	F2	合計
1	熊井 恒雄	194	180	180	180	180	180	180			1274
2	田久保潤一	210	180	137	180	180	180	180			1247
3	和田 光信	210	177	114	180	180	180	180			1221
4	山本 修	210	180	180	180	180	83	174			1187
5	大矢 高士	210	180	180	180	180	64	180			1174
6	村上 善喜	210	180	180	120	180	180	123			1173
7	櫛引 敬司	155	66	180	180	180	180	180			1121
8	中澤 正雄	175	180	180	180	180	72	58			1025
9	井沢 正男	119	70	169	180	180	52	180			950
10	平尾 寿康	8	180	76	111	34	19	-			428

F1B成績 注:1Rは240秒マックス、2R以降は180秒マックス

順位	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	F1	F2	合計
1	中田 光恭	240	180	180	180	180	180	180	420		1740
2	菅原 隆郎	240	180	180	180	180	180	180	317		1637
3	田岡 真	240	180	180	180	180	180	180	210		1530
4	西沢 実	240	177	180	180	180	180	180			1317
5	坂巻 敏雄	240	180	180	180	180	180	148			1288
6	榎本 栄一	240	180	180	120	128	180	180			1268
7	白井 正己	240	157	180	180	155	180	126			1218
8	吉田 潤	240	180	176	180	113	180	142			1211
9	谷塚 正実	240	180	180	180	180	180	55			1195
10	勝山 彊	188	144	180	109	163	180	180			1144
11	三留益良男	0	180	141	180	180	180	0			861
12	津田 晃英	240	180	180	108	82	-	-			790
13	新谷 慎吾	49	155	180				-			384

F1C成績 注:1Rは240秒マックス、2R以降は180秒マックス

順位	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	F1	F2	合計
1	関沢一雅	235	180	180	176	180	180	180			1311
2	増田哲治	240	180	180	148	180	166	180	317		1274

# 長浜ドームインドア飛行会報告

やまめ工房 石井満

ゴールデンウィーク中の5月3日の夜に滋賀県の琵琶湖東岸の長浜ドームで飛行会が行われました。今回は室内で安全に飛ばせる飛行機なら何でも有りの自由な飛行会です。関西圏では初めての開催でしたが近県から30名以上の飛行機仲間が集りました。紙飛行機、ピーナッツ、インドアゴム機、ライトプレーン、はばたき機、カタパルトグライダー、折り紙飛行機など思い思いの飛行機を持ち寄ります。普段目にした事が無い飛行機が所狭しと飛び回り改めて模型飛行機の多様性とそれぞれの楽しさを再認識出来たのではないのでしょうか。

会場の長浜ドームは天井高が30m(風船を上げた実測で29.9m)とカテゴリー3となります。サッカーグラウンドが入る広さでカテゴリー3としては広くて最高の会場です。次回のインドアHLG記録挑戦の候補会場として一度飛ばしておく必要もあり今回の飛行会となりました。

	V	CL	Re
2W	5.73	0.522	33976
↓	5.11	0.655	30330
	4.77	0.753	28296
	4.77	0.753	28288
	4.55	0.826	27015
	3P	4.49	0.918
3P	4.60	0.874	24731
3Z	3.94	0.746	23318
3Z	3.87	0.776	22864
機体	滑空速度	揚力係数	レイノルズ数
2W		3P	
アウトドア用翼端投げ機		アウトドア用翼端投げ機	
アンダーキャンパー翼型		下面フラット翼型	
スパン820mm		スパン815mm	
センターコード102mm		センターコード92mm	
主翼面積7.1dm <sup>2</sup>		主翼面積6.4dm <sup>2</sup>	
アスペクトレシオ9.47		アスペクトレシオ10.5	
平均翼弦86.6mm		平均翼弦78.5mm	
重量76g		重量74g	
翼面荷重10.7g/dm <sup>2</sup>		翼面荷重11.7g/dm <sup>2</sup>	
3Z			
インドアcat3用翼端投げ機			
アンダーキャンパー翼型			
スパン1055mm			
センターコード102mm			
主翼面積9.1dm <sup>2</sup>			
アスペクトレシオ12.2			
平均翼弦86.3mm			
重量66g			
翼面荷重7.3g/dm <sup>2</sup>			

私自身はカテゴリー3のインドアHLGの翼端投げをテストしました。スパン1m前後で60gほどの機体を4機持ち込みました。スパン90cmクラスのハンドランチを少し大型にして重量は逆に少し軽くする程度の機体になります。この機体を翼端投げで天井近くまで上げて70秒前後が最高でした。天井はアーチ状になっていて上の方は狭いので天井いっぱいまで使おうとするとピンポイントのコントロールが必要になってきます。

壁や仕切りネットに当たり落下大破する事もありました。記録挑戦時には何機も用意する必要性を感じました。また別の対策として高さを26mぐらいに押さえて広く会場を使う方法も考えられます。次回の飛行会には今のよりも旋回半径が小さくもっと翼面荷重の小さな機体を持ち込みテストしてみたいと思います。4月に秋田の樹海ドーム(天井高46m)で飛ばしたタイムはカテゴリー3用機体で87秒、ただし高度は30mを越えていた可能性が高いのでポテンシャルとしては80秒ぐらいでしょうか。

カテゴリー4用(天井高30m以上)では最高が95秒でした。今回の長浜ドームと樹海ドームでの練習の結果かなりの確立で現記録を更新できるレベルにあることが確認できました。今回の長浜ドーム飛行会のような何でも有りの飛行機飛ばしの会をこれからも近い将来また開催したいと思います。将来的に

はインドアHLG・カタパルト競技会なんてのも開けたら楽しいですね。もっとインドアHLG人口を増やして盛り上げて行きたいと思います。

上記左の表は、長浜ドームでの計測結果です。アウトドア機で 4.5 ~ 5.7 m/s、インドア機で 3.9 m/s 前後でした。数値が暴れているので信頼性は今ひとつです。2Wの最初の2回を捨てると考えるとまあまあ揃った値になっています。揚力係数は前回の計測結果より幾らか大きな値になりました。0.8 前後は十分期待できる様です。計測した状態がはたして定常滑空なのかどうかの見極めが必要です。レイノルズ数は面積平均翼弦長で計算した値です。インドアカテ3の3Zで 23,000、アウトドア用3Pで 25,000、アウトドア用2Wが 28,000 程度です。経験上、20,000 以下では性能がガクッと落ちる印象ですが、かろうじて上回っています。翼の性能はある程度期待できるレイノルズ数だと思います。

## 平城京大会報告

今年の平城京大会は6月1日に開催されました。幸いに風もなく暑いぐらいの好天に恵まれ、参加者全員納得(負けても納得?)の一日でした。関東勢は主として横浜中心の12名がまとまっての旅で、土曜日午後は物好きにも菩薩様が東京出張中の薬師寺観光、夕食は当然ながら宴会でヒコーキ談義、それが終わってから午後10時まで意味不明の長談義となりました。

この日の年寄りによくしゃべって、プロペラを削るにはどんな音楽がいいかが話題となって、教養あふれる芸術論となりました。まずは美空ひばりは天才であるとの意見でこれはみな一致、しかし、2人目のアイ・ジョージでは意見が別れ、3人目の青江美奈ではほぼ不同意となりました。要は誰の音楽でもプロペラは削るようです。その後も話は続いて、戦前の歌曲集(軍歌、歌謡曲、民謡等)がイイト主張する人もして、これには、ま一応の同意(高齢者のみ?)が得られました。また、軍歌にも名曲があるとの意見には賛成多数でした。結論として、美空ひばりを聞きながらプロペラを削ると優勝出来ること間違いありません。結局この日は飛行機談義のみでは「器量が狭い」との意見を心配してか、とうとうレイノルズ数の話は出ず、音楽論議のみでお開きとなりました。

### \* 競技風景 高田富造

梅雨が早めにやってきてやきもきしましたが、幸運にも高気圧に覆われ晴天でした。翌日は強い雨だったので幸運でした。さわやかな、楽しい競技会になりました。会場の平城宮跡第1次大極殿跡では大極殿復元工事が完成に近づきまして、関連の朝堂院の復元工事などが続くため大童の発掘調査がおこなわれています。そのため大変狭く使うことになりました。この日は運良く東北の風で狭い四角でも対角線に飛ばせるということになりました。一番使いやすい方向です。風はたらたら変わりましたがおおむねこの方向でした。これが競技の結果に響くのですが、経験の差が現れました。さて。朝早くから、早い人は6時にはスタンバイ。私たちも佐紀町バス停で場所を確認して準備に入りました。どんどん人が沸くように集まってきました。えらいこっちゃ、うれしい悲鳴です。参加者はLP級25名、三級9名、HLG級23名、CLG級4名。同伴者、参観者を入れると80名ほどの規模になりました。

HLGの結集はすごいものです。高齢者はだいぶ暑さに負けて低調でしたが、代わって若い方や遠方の新しい顔ぶれががんばっていました。中学生や高校生の健闘は今後に楽しみをつくりました。

CLGでは初参加のミネソタの方が優勝でした。珍しい方が来られるのも楽しみです。これまでもCLGで王博さん(中国F3B)が優勝したり、郭さんの娘さんなど中国留学生たちが参加しました。加藤隼戦闘機隊四二戦隊の戦友会で2人参加されたこともありました。お一人は台湾からでした。四国や九州からの参加もありました。今回は新潟から初参加でした。

競技は、相互計時でした。各種目にリーダーを選んでいただき自主運営で進行、集計をお願いしました。見る見るうちに処理されるのでありがたかったです。本部はKFC顧問の岩村さん、地元町内会の岩井さんに目を配っていただきました。安全管理も岩井さんの気配りがありがたかったです。

競技はLP、HLGで決勝フライオフがおこなわれました。LPは12名、約半数が残りました。石井さんが貫禄の優勝でした、上昇も見とれるほど。仁木さんは凄い上昇でしたが大極殿に近づきすぎたので乱流にふられたようでした。地形、樹木、建物とむずかしいのですが、石井さんは通い慣れて万事承

知かな。HLGの決勝は凄い殺気ともいえる雰囲気でおこなわれていました。真剣そのもの。第2フライオフは青天井でおこなわれ野中さんが420秒という大記録で優勝でした。ランチャーズの意地を平尾さんに代わって示しました。新潟の永井さんは2位でした。

ミニクープの部も9名と微増。なんとか秋のミニ国際のF1G参加に結び付けたいのが私の願いです。みなさん、もう少し大きく作るだけでいいですよ。頼みます。参加者の希望としては、HLG-Bの新設が出ていました。これがあると万博のカミヒコーキグループをもっと呼び込めるとの意見でした。

次回に考えたいです。今回の種目リーダーを引き受けていただいた皆さん、ほんとうにありがとうございます。町内の岩井さんには毎回見守りいただき、感謝申し上げます。管理事務所の巡視員の皆様にも暖かい声掛けをいただき、ありがとうございます。地域に親しまれる催しへ今後も努力したいと思います。最後に、強さん、ありがとう！（高田富造）

## 種目別の報告

### ライトプレーン

関東中心の報告になります。ライトプレーンでは石井英夫氏がいつも「観光が目的」とか「1回だけ飛ばそうかな」などと三味線を弾きながら、いざ始まると熱が入ってしまい今回みたいな、みっともない優勝をしてしまい申し訳ありません。次回からは深く反省して気を付けます。3位にも瀬谷の吉田選手が入ってますがこれは本人の努力、本家の仁木さんはフライオフに残りながら5位は不本意で、帰ったらまたまたカッカとしてプロペラ削りでしょう。8位の和賀井太郎君は、今まさに泥沼に引きずり込まれつつある高専の1年生で、親に恨まれる事必至、これは石井さんのセイです。知らない・・・。

参加者25名とは素晴らしいことです。しかもその内12名がフライオフに残るのですから、技術レベルも相当のもの。わずか5gのゴムで、凄まじい高度を取りラクラクと1分飛ぶのですから。故木村秀政先生が最新のライトプレーンご覧になれば、その設計と性能に驚嘆されるでしょう。

### ミニクープ

このクラスは比較的参加者が少なく9名、しかし、国際級のモサがウロチョロする種目です。今回も関東の坂巻選手がしっかりと優勝、2位の藤田さんはF1Bの名手で、小型機になってもしぶとく残っているのはサスガです。3位にも瀬谷の鈴木氏がつけて関東から出かけた甲斐があったというもの。

しかし、このクラス、ライトプレーンより飛ぶはずなので、フライオフなしは反省して下さい

### HLG

HLGは当然ながら、ランチャーズのお家芸です。優勝をねらう井村、春山、野中、池田、石井満、斉藤の各氏は前夜から泊まり込みで準備です。結果を見ると9人もフライオフに残るといふ有様で、その内、野球投げが3人。90秒ともなると、HLGはこんなには飛びませんので難しく、大型のUHLGのみ3人が残って、時間無制限の勝負となり、結局は狂気の野中選手が7分以上を飛ばして優勝、2位は突然参加の新潟・長井選手、3位は、最近天敵 野中氏にやられっぱなしの春山選手でした。4位名古屋 伊東選手、5位関西のUHLGに転向組の毛利選手、6位野球投げの池田選手、この辺りまでは不調とは言えませんが、7位新潟の笠井選手、8位井村選手、9位の掛山選手となると「何でデサーマルで投げるの」言いたくなります。どうみても、この日不調なのは山本選手、園田御大、生駒選手と、なぜか野球投げがダメでした。

しかし、UHLGでスパン130cmクラスが出てくると、それと競う60cmクラスの野球投げの運命が心配になります。HLGは、どこにもかくにも勝負が面白くないといけません。記録会で続きませぬのでね。

皆様のご意見をお待ちしています。待ッテマース。



第12回平城宮ライトプレーン競技大会・結果  
2008. 6. 1 奈良市佐紀町・平城宮跡緑地広場

ライトプレーンの部

順位	氏名	チーム	1R	2R	3R	4R	5R	FO1	合計
1	石井 英夫	SFFC	60	60	60	60	60	167	467
2	三井 隼	平城宮	60	60	60	60	60	142	442
3	吉田 勝海	SFFC	60	60	60	60	60	131	431
4	嶋田 信	SFFC	60	60	60	60	60	115	415
5	仁木 士郎	SFFC	60	60	60	60	60	108	408
6	岡崎 一良	四条囃	60	60	60	60	60	102	402
7	寺川 進	平城宮	60	60	60	60	60	101	401
8	和賀井 太郎	SFFC	60	60	60	60	60	79	379
9	宇津 秀夫	KFC	60	60	60	60	60	74	374
10	川阪 末継	OPC	60	60	60	60	60	68	368
11	梶原 正規	平城宮	60	60	60	60	60	67	367
12	平井 久俊	SFFC	60	60	60	60	60	63	363
13	村上 英俊	CFFC	60	60	60	60	58		298
14	小松 照	KFC	58	60	60	60	57		295
15	高田 富造	KFC	60	46	60	60	60		286
16	岸田 義和	KFC	41	60	60	60	60		281
17	岩村 慧一	KFC	40	60	60	60	60		280
18	野々村 義則	OPC	36	51	60	60	60		267
19	村上 正一		60	43	36	48	38		225
20	菅原 治	KFC	60	60	35				155
21	内野 勝		60	19	43				122
22	毛利 毅		57	42					99
23	林 淳雄	KFC	56						56
24	藤野 清		41						41
25	高岡 成治	KFC							0

ミニクープ&小型混合の部

順位	氏名		1R	2R	3R	4R	5R	FO1	合計
1	坂巻 敏雄	YSF	60	60	60	60	60		300
2	藤田 清明	KFC	56	60	60	60	60		296
3	鈴木 正義		60	60	51	60	60		291
4	脇田 佳子		58	49	60	60	60		287
5	田邑 什二		60	60	41	60	60		281
6	佐々木 利勝		47	60	60	53	56		276
7	高田 富造	KFC	53	60	60	36	41		250
8	今村 利勝	KFC	31	38	55	60	60		244
9	鈴木 友信	8SF	40						40

HLGの部																
順位	氏名	チーム	1L	2L	3L	4L	5L	6L	7L	8L	9L	10L	FO1	FO1	FO2	合計
1	野中 正治	ランチャーズ	60	60	57	60	49	60	60				90		420	810
2	長井 道雄	新潟	38	60	60	60	60	60					68	90	39	429
3	春山 清夫	ランチャーズ	52	60	60	5	60	60	60				90		39	429
4	伊東 哲男		34	60	49	60	60	60	52	60			70	80		380
5	毛利 修		35	60	54	60	60	60	60				79	46		379
6	池田 昇		60	60	60	60	60						75	28		375
7	笠井 修一	新潟	30	60	60	60	60	60					54	60		360
8	中村 真三		43	30	60	60	50	60	45	60	60		24	44		344
9	掛山 吉行	CFFC	60	24	31	32	60	60	60	60			37	24		337
10	岡本 淳		33	60	57	21	41	60	60	32	32	60				297
11	春山 直岳	滋賀	58	60	39	60	57	51	58	39	32	60				296
12	斎藤 勝夫	ランチャーズ	59	53	44	34	54	40	60	24	40	60				286
13	石井 満	ランチャーズ	31	36	35	60	60	60	60							276
14	平尾 寿康	ランチャーズ	60	48	37	38	60	24	60	39	23	34				267
15	中川 浩伸	NSF	38	24	60	36	43	33	49	60	31	50				262
16	山本 和文	三重	41	30	32	27	36	60	38	60	33	30				235
17	園田 宏樹	万博	24	40	17	31	33	5	38	26	55	60				226
18	立木 詠都	滋賀	60	20	14	57	29	27	23	26	44					217
19	岡本 陸		14	22	53	26	20	50	19	11	18	16				168
20	小笠原 憲夫	NSF	22	34	37	40	30	20	22	5	5					163
21	毛利 航希		17	11	19	18	12	33	14	20	28	15				118
22	生駒 大造	NSF	15	41	40	12	1									109
23	柴田 登志	CFFC	25	45												70

(注)アンダーラインの選手はジュニア。  
(注)FO1は90秒MAXで2投、FO2は無制限で1投。

CLGの部																
順位	氏名	チーム	1L	2L	3L	4L	5L	6L	7L	8L	9L	10L	合計			
1	Les Laidlaw	ミネソタ	60	36	34	60	27	45	60	60	60		300			
2	高橋 浪男	NSF	22	35	60	60	14	60	42	32	48	35	272			
3	村田 敏郎		40	28	22	45	60	36	22				209			
4	斎藤 勝夫		16	4									20			

(注)HLGおよびCLGは10投中5回の合計による。

訂正・8位の中村は井村の間違い。

## お知らせ

### 2008年新潟夏期合宿のご案内 (予定)

- 開催日時 2008年8月2,3日(土、日)
- 開催場所 新潟県東部産業団地(阿賀野市安田地区)
- 宿泊場所 新潟市阿賀野市内
- 参加費等 未定(多分、8千円程度か)
- 行事等 競技等はありません。新潟在住の模型飛行機愛好者(Uコン、ラジコン他)と全国の飛ばす場所に恵まれない方々との親睦を兼ねて、それぞれ好き勝手な模型飛行機を飛ばしましょう。希望する企画があれば、ご提案下さい。
- 申込期限 7月18日頃
- 申込先 新潟ランチャーズ 担当長井
- その他 詳細は追ってランチャーズホームページに掲載します。

### 2008年松茸大会(中部秋季競技会)案内 (予定)

- 開催年月日 :2008年9月26日(日) 時刻:AM 08時30分から  
主催 :中部フリーフライトクラブ

場 所	:三重県鈴鹿市池田町タンボ
参 加 費	:1種目 2000円、2種目参加の場合は + 1000円、ただし中学生以下は無料。参加費は競技当日に各種目の実行委員にお渡し願います。
種 目	:HLG,F1G,F1H,F1J,G,R,E,小型混合級 エンジン機 (E級・F1J) 2分max 5ラウンド グライダー (G級・F1H) " ゴム動力機 (R級・F1G) " ハンドランチグライダー 1分max 5R(各ラウンド2回のうち上位タイム) 小型混合級 1分max 3ラウンド
そ の 他	競技中の事故等については、参加選手各自で対応する。天候等の理由によりラウンド数を変更することがある。作業中の農家の方々には、こちらから積極的に挨拶してください。デサマには必ず火縄落下防止装置をつけてください。小型混合級はスパン30インチ以下、ゴム重量 10g以下の機体なら何でもOK。
連 絡 先	中部FF会長吉川広、実行委員 E級・F1 若川強、 G級・F1H 佐藤宏彦 R級・F1G 吉田潤、 ハンドランチ掛山吉行、小型混合級竹内栄重

## FF文化サロン

### CLG機の問題あれこれ (2)

2008・4 石井英夫……

#### \* プラス5秒へのアプローチその3 「トレーナー機」を徹底改造する

「トレーナー機」の改造計画には、目標・目的が2つあります。1点は静気流性能 75秒超え、もう1点が宿願の乱気流対策で、この2点を新しいらせん上昇方式でまとめて解決したい。

ここからは具体数字の羅列になります。ほんとうは設計図面で表示すべきですが、「トレーナー機」についてはすでに設計図面がひろく流布されていると思われるので、興味のある方は原型からの変化を読みとっていただければと希望します。

まず、主翼をどうするかですが、レイアウト的には「トレーナー機」原型そのままとします。スパン26センチ、中央翼弦5センチ、翼面積1.18デシメートル、アスペクト比5.7。翼先端で30ミリ上がる翼端上反角も同じです。上昇高度にも滑空性能にも影響を及ぼす翼の厚味が問題ですが、これも原型と変わらず2.5ミリ厚、5パーセント翼としました。CLG機の翼厚問題は非常にデリケートな問題で、4パーセント厚翼から6パーセント厚翼までそれぞれ長所・短所があって、どれが最善と断定はできません。河田さんは5パーセント翼よりやや薄翼指向で、好結果を得られているようです。またバルサ素材3ミリ厚そのままの6パーセント翼の愛好者もありやる人の好みで分かれるようです。ただし翼厚は5パーセントと原型そのままですが、ハイポイント位置は原型の30パーセントから20パーセントへ、前縁から10ミリ位置と大幅に前進させました。これは翼下面大幅なそり上げと関係します。

ハイポイント30パーセント位置のままの大幅な下面そり上げでは、翼上面が平坦化して、翼揚力の減少が心配なためです。翼厚を増せば揚力係数は確保出来ますが、低レイノルズ数には薄翼というセオリーがありますから、それはやりたくない。ということで揚力のための翼先端部上面の丸味づけは、ハイポイント前進でそれなりの格好をつける。というのも石井満さんがいわれるように、このテの翼ではどうやったら翼弦後半はハクリするんだから、翼先端の形が勝負、とそうい考えです。

モンダイのそり上げの程度は、翼下面から測って、0.5ミリから0.8ミリぐらいまでいろいろ試していますが、どのへんが最適かサッパリわかりません。小生にはまだこれをやることに心理的な抵抗がありまして、翼断面が対称翼に近づくことに、ある種のオソレを感じます。まあこういうことも、慣れの問題かもしれないが。

全機のレイアウトで「トレーナー機」の原型から変わったところをいいますと 機首の長さを4センチから2.5センチと縮めて、主翼位置を大きく前進させました。もちろん、乱気流時の安定化対策です。安定化対策としてはもうひとつ、重心位置を原型の後縁 12ミから22ミと大きく前進させて、主翼風圧中心に近づけました。これをやるのは人が操縦しないフリーフライト機の自律安定化対策では定石のようなものですが、その代わり 機首オモリの必要量が増えて、機体がやたらと重くなりました。

通常の「トレーナー機」に比べて、1.5グラムは確実に重くなりますね。軽く軽くと作っても、機体本体 4.3グラムに加えて機首オモリ3.7グラムで、合計 8グラムとなります。さきに述べた理由で、まあ8グラムまでならいいかと、重量のことはあまり気にしないことにしています。

機首モーメントを短く、後部モーメントを長く、加えて重心位置を風圧中心に近づけているので、水平尾翼面積を思い切り削ってみました。原型主翼面積の33パーセントから、25パーセントにです。

飛ばしてみても、これでもまだ平時には安定度充分のようですから、さらに図に乗って、いまふり投げHLGにならってY字尾翼とし、水平尾翼面積主翼の20パーセントのものを試作しています。空気抵抗が減って空力性能向上は確実なはずですが、さて安定の方はどうなりますか。

昨今のフリーフライト機は、あちこち空気抵抗は削りに削ってしまって、残る抵抗は尾翼ぐらい、となっています。ですから機体の完成度は尾翼の大きさを見ればわかる、小生そう思っている者ですが、さきごろ、40パーセントぐらいありそうな尾翼の紙ヒコーキの人にそのことを言ったところ、尾翼で揚力を稼ぐという考えもある、という答えが返ってきました。これまた新説で、そんなのあり? と思いましたが、世の中まあいろいろです。

その水平尾翼ですが、「トレーナー機」の原型では主翼の33パーセント、それに近いものに薄目のハンドランチ翼としています。これを縮めて主翼の22パーセント面積とし、尾翼に揚力は求めませんから、0.5ミ厚の平板とします。水平尾翼はもう少し縮められそうで、ふり投げHLGが良いお手本とみています。主翼の最適縦横比問題について、「トレーナー機」原型翼のアスペクト比は5.7ですが、これは変えていません。いろいろ試してみても、「トレーナー機」サイズのCLGのアスペクト比はこんなもの、という見切りがあるからです。フリーフライトのどの種目でも最適縦横比問題はなかなかオクの深い問題で、CLGのアスペクト問題についても数ページを費やして書いてみたいテーマではありますが、あまり長くなるのも興ざめですから、簡略にとどめます。

「トレーナー機」滑空比改善を求めて、一時期スパン32センチ、アスペクト比7.0まで試みましたが、滑空比性能は向上するものの、上昇性能がいまいちとなって、総合的な滑空性能プラスとはなりません。- とこのように書いてきて、小生いま思わぬところに気がつきました。それは何事かといえますと、小生はこれまでに、ハイアスペクト、つまりロングスパン側には数限りない製作例実験例があるのですが、ショートスパン側にはなんと実験例1例もないのです。今ごろ気がつくとはまったくウカツですが、なぜかショートスパン方向には拒否反応がダメ出しをするらしく、身についた頑迷さといわざるを得ません。ショートスパン機が性能ダメというわけではなく、そのスタイルで好成績をあげている何人サンも承知はしているんですが、あっち方向はオレには出来ないナ、と思い込んでしまっているフシがあります。まあ長いことやっていると、どこか頑迷にもなりますね。

#### \* プラス5秒へのアプローチ その4 さて飛ばしての結果は?

さて、「トレーナー機」の原型を以上のようにいじってみての新シリーズ群、飛ばしてどうだったかの報告になります。細部をいろいろ変えたバリエーションモデルを試している実験途上で、まだ結論をいうには早いんですが、やってみての収穫はたしかにありました。

新シリーズモデルでは、直線上昇もらせん上昇もやろうと思えばどちらでもやれます。どちらでもやれますが、新シリーズではらせん上昇しかやっていません。そうして、らせん上昇でやってみて、上昇高度は明らかにアップしました。目測での見当ですが、高度45メートルか、ひょっとすると少し超えたか、というところ。これまでの「トレーナー機」では実現しなかった高さです。これが新手法のそり上げ効果であることは明らかですが、他方の翼揚力効果が作用しているかどうか、それはわかりません。だいたい上昇のための翼揚力効果なんて、測りようがないのです。ですが、らせん上昇パターン

でやってみて、直線上昇方式に負けないか、あるいは勝るかも知れない上昇高度を得たことに気を好くして、揚力効果もあるんじゃないか、ととりあえずそういうことにしておきます。ただ、昔やっていたらせん上昇方式に回帰してあらためて気づいたことは、直線上昇やるのもデリケートだが、らせん上昇パターンの調整も劣らずデリケートだということです。とくに、垂直尾翼ラダー部の利きがものすごく鋭敏で、らせんのためのわずかなラダーの利かせすぎでも、何かというと左スパイラル降下で突込んできてコワイです。フライトパターンは右 左方式でやってまして、ふり投げHLGのように、右 右方式のほうがよいのかどうか、それはまだわかりません。

上昇高度のアップが効を奏しているらしく、目標の滞空75秒には何とか届いているようです。ですが、気流条件になかなか恵まれず、また、静気流時の測定がまだ不十分で、それに欲目というのもあり得ますから、しばらく断定は控えます。

滑空スピードは速くなっています。機体重量が8グラムとやや重いうえに、下面そり上げ翼型となつて、揚力係数低下を招いていると考えられます。しかしその割には滑空沈下率がまずまずなのは、そり上げ翼型、揚抗比性能も案外いけるんじゃないか、とこれは嬉しい発見でした。水平尾翼を縮めた効果ももちろんある筈で、あくまで推定ですが、滑空速度4.2メートル/秒、滑空比7、滑空沈下率0.6メートル/秒ぐらいとみています。滞空性能の方はまずまずとして、もうひとつの課題乱気流時対策についてはどうか？こちらは本格的なテスト不十分で、まだ何ともいえません。実験といえども敢えて強風・乱気流時に飛ばすのは、機体の消耗がはげしいので、やる気分になりにくい、ということがあります。いずれおいおいわかってくるとは思いますが、この課題についてだけは楽観はしていません。この程度の改善ではとうてい本質的な解決に至らず、せいぜい、ほんのわずかでも改善効果が得られれば、ぐらいの気分です。

以上で、CLG新プロジェクトで何をやったかやってみて結果どうだったかの中間報告を終わります。模型ヒコーキ道楽も、目的・目標をもってやるから面白いので、それがないともう退屈なばかりで、やってられません。CLG機の乱気流問題については、もう少し係わってみたいと思っていますが、どうやら生きているうちには、解決望み薄のようです。どなたか気鋭の方、やってくれませんか。

最後に、こだわるようですが、パチンコ機の上昇に主翼揚力が利用できるかどうかの問題についてもうひとつ。こういうことが可能で、それが上昇アップにつながるなら、こんな良いことはないんですが、小生にはそここのところのリクツがまだ良くわかりません。どなたかアタマの良い人が解析していただけるとありがたいです。パチンコ機の上昇についての小生の理解というのは、ニュートンの運動方程式マイナス空気抵抗と、それ以外の考え方を出来ないでいます。ただ、こういう仮説を考えてみました。それはヨットの帆の働らきに関する考察です。アメリカズ、カップクラスの高性能ヨットですと、風上方向に45度もの角度で切り上がって行けるんだそうです。ハイアスペクトセール揚力効果によるものでしょう。そつだとすると、CLGでも機体を上空に引っ張り上げる翼揚力効果が期待出来るのか？バルサCLGには、まだまだ微妙でわかり切らない問題がいろいろあります。要するに、ナリは小さいながら技術ノウハウの固まりだということです。 2008.4.石井英夫

## 苦情を好機として

倉田泰蔵……

5月11日、転居した庭の芝を買いに大宮の「はなの木」へ。そして田植えの様子を見にたんぼに行った。ヘリグライダーとも多くの人絶好の日和で楽しんでた。たんぼは1/3くらいが植え付けられ、例の岩田さんが叱責を受けたたんぼの人が畔のあたりこいたのを遠くから見たので、挨拶とお詫び、先日結果を伝えようと車を進めたが、会つ前に走り去ってしまった。概当のたんぼから荒川寄り4枚目で植え付けが終わりにかけていた。若い人が親の指導を受けていたが見た目にも危うげで、道への乗り上げは親が代っていた。島崎さんという方で、先日の自粛と、水路の中まで一斉清掃しゴミは各自手分けして持ち帰ったなど話した。それはご苦労さん、まとめておけば、ぼくらが役所に連絡して回収してもらった」とのこと。われわれは30数年たんぼを使わせてもらってピットの傍らの農家の人の名前と

顔、連絡先など全く知っていなかったのではないか。

岩田さんのネットでの呼びかけで千葉から湘南まで、常連のほとんどが集合し、掲示板に要約された結果が得られた。期間短縮とより一層の自主規制で理解は得られるだろうか。ラジコンにも詳しい和田さんによれば一人年数万の負担と親密なコミュニケーションで、良好な関係があり条件は異なるが一年中楽しんでいるとか。

FFも往事と比べるとたんぼも様変わりしてきた。掘り返しが年々早くなり一挙に細分化されている。元来は大きな固まりで深く掘り、ひっくり返して大気に万遍なくあて地力を回復し、平坦にするのは水入れ寸前だったが、早くからカンバスのような所が多くなった。足跡もかんじきのように巨大化するし、鳥の足跡さえ判るような所もあった。なるべく畔を歩くようにというが、たんぼをガードしているのが畔で、モグラ、ザリガニ、ケラ、アリなどの穴をクワかきで頭わにし畔塗りをする。以前は一鍬一鍬、土を打ちつけ、壁塗りのように固めてゆく。熟練の業で、固まるのに数日を要し、機械は更にコストがかかる。田植えは短期に集中するので、たんぼの持主であるが、代かき前の機械作業は請負が多く、その人に挨拶しても持主に伝わることは少なく、こぼれまわってはもう一度やり直した方がと云う側かもしれない。云われた持主は頭にくる。米価は安いし、去年は冠水で被害を受けた。除草、肥料散布、畔の手入れをしている人が持主で、遠くにそういう人を見かけたらお礼に出向く。足元にヒコーキを置いて挨拶をする。耕していなくても文句を言われたというが、一年を通じてのことを叱責しているのである。

大宮のたんぼは耕作条件の平等のため一軒のたんぼは数ヶ所に分散しており、それぞれの畔は他家との仕切りで、われわれは境界線を踏んでいるのだ。お礼を10倍にしたとしてもピット周辺の農家には渡らない。手植えの時代であれば手伝う事も考えられるが、これも素人には無理である。

いつもの十字路で3米もある道路下の暗渠にもぐり込み時間をかけて、泥をかき出している青年二人を見た。聞けば傍らのたんぼの持主で数年前までは年老いた夫婦が作業していた。何度か手伝ったことがあったが、世代が移ったサラリーマン農家の兄弟だった。プライバシーが云われ、自己主張の現代、状況は悪い。今回の規制、ゴミ掃除、来シーズンまで声をひそめているだけで存続可能だろうか。場所を変えても何で俺のところだとなろうし、サイクリング道も出来て利用する数も増えた。その筋からの苦情が出れば、行政も乗り出すこともあり得る。苦情を受けて後ずさりしていたが、今回は岩田さんが長時間真摯に受け止めたので納まればいいのだが…。組合を通して踏み跡の多い持主の農家は判るし、コンタクトを取り規制の報告とお礼に伺うところまでの積極策はどうだろうか。息子さん、お孫さんにと紙ヒコーキとか世界選手権のCDなど進呈はどうだろうか。農繁期に差し入れなどは。

勝山さんが言われた米の買い入れなども考えられる。苦情は好機とし、各個撃破で当たれば道は開けるのではないだろうか。昔の農法をほとんどを体験した一人として、合意があれば職を離れた今、同道しても思っている。

ここまで来て、Eメールのことから平尾さんと話した。農家との付き合いなど先達の往事の配慮と苦労をよく知っていた。今はそれを語る人もいない。請負耕作も進行中とか。北側ゴルフ場角の芦原も、ハンドランチピットの傍らの蒲の密生地も去年は作付けされた。耕作意欲の低い農家を、請負を業とする組織が侵蝕中か？ 耕作地も点在してようし、岩田さんの相手もこの手の人か？ とすればこれは難敵強敵に近い。勝山さんの情報によれば、異常に平坦な所も直播き農法の出現のようで、踏み跡は苗床を荒し、雑草の種を持ち込むことのように当然土地管理にはとても敏感とか。事情は激変している。対処は至難だ。議論百出で落とし所を捜さねば。

## 振り投げHLG - Bの紹介

平尾……

今回回報には図面が1枚もないので、たまたま完成したばかりの振り投げHLG - Bの図面を載せる事にしました。最近まで、スパン36cm以下では振り投げのメリットがないのではないかと考えていま

した。と言うのは、私はこれまで小型機では指掛けを付けずに、手の平を下向きで翼を掴んで投げていました。その場合、野球投げよりは楽に投げられますが、高度は今一つ不満でした。しかし、5月記録会で石井満氏が、小型の指掛け付き振投げHLGをやたらと高く上げてました。アレレと思って、さっそく手持ちの小型UHLGを指掛け付きに改良し試してみました。その結果は素晴らしいものでした。

指掛け付きUHLGでは手の平を上にして翼を掴むので、手首のスナップがスゴク効くのです。これですとちびた号クラスの小型機でもメリットがありそうです。そこで36cmのUHLGを作りテストしましたが合格です。前縁そぎ上げ等特別な工夫はしていませんが、よく上がります。又、フラップ翼なので滑空も素晴らしく、本機の滞空性能を32秒とふんでいます。如何でしょうか。(図面別添)

## 雑談天国

ひれ)

stupidcat).....

バードウォッチングなどという洒落たことではないのだけれど、公園のベンチで野鳥を観察するのが日課だった時期がある。いつもの話相手が現れない日は、たいてい小さな模型ヨットを走らせながら、とりとめもないことを考えていた。例えば、「ヒレ」について...

『ヒレ』...サーロインの内側にある細長い部位。脂肪が少なくてきめが細かく、もっとも柔らかい赤身肉です。/大きな牛でもわずかしか取れないので貴重な最高級肉です。/ステーキには火をとおし過ぎないようにレアで仕上げるのがコツです。/生のタルタルステーキに用いたりもします。(お肉のスペシャリスト肉のいろは・本店)HPより お肉の部位とおいしい食べ方 代表的なステーキ肉)』

霜降りなど脂っぽい肉が人気だが、ステーキはヒレ(テンダーロイン)に限ると思う。鮪(まぐろ)だって、トロより赤身の方がなんぼか上品で美味いと思うのだが、賛同して下さる方は少ない...ってなことではない。今回は、牛肉のヒレの話ではない。

辞書で「ヒレ」を引くと...『ひれ』 鱈...魚の》a fin. (goo EXCEED和英辞典からの検索結果)』

鱈といえば、お手軽釣りの代表である鯊(はぜ)のハラヒレがおもしろい。左右のヒレがつながって吸盤のようになっており、これで海・河底に貼りつくらしい...ってな話でもない!

失礼しました、ココからが本題です。

昨年、「北の寒い国」から二十数年ぶりに帰国を果たした5人の方々がタラップを降りてくるシーンは、仕事がオフだったので生中継で見た。その後、幾度となく流されたニュース映像を見ていて、つまらないことに気がついた。5人を迎えに飛んだのはANAのボーイング767で、たぶん“- 200”か“00”だと思っ。タラップを降りてくる人たちの後方にエンジン部分が写っていたのだが、そこに妙なモノが付いていたのだ。フィンと呼んでいいのかわからないが、文字通り「ヒレ」のようなモノがエンジン前部の内側、角度にして上方45度ぐらいのところにあっただ。サイズは見当もつかないが、そんなに小さなモノではない。以来、気になって気になってたまらず、古い旅客機の写真集を調べたりした。しかし、印刷物ではなかなか確認できない。そもそもエンジン・ナセルの胴体側というのは写真に写りにくい。

正面に近い角度の写真、あるいは機体を上方から撮った絵は案外少ない。もちろんインターネットでも調べまくった。その結果、たしかに767には「ヒレ」があった。ボーイングのHPで確認したから間違いはない。ほぼ同じ翼を持つナローボディの757には見当たらないので、767特有の装備(?)らしい。

また、新モデルである767-400にも、「ヒレ」はちゃんと付いていた。

ところで、実機でも模型でもヒコーキの表面はグリーンな方が良いとされているから(ただし、極小レイクルズ数領域で遊んでいる奇人・変人は例外だが)、なるべくノッパラボウ(グリーン)な方が好ましいはずだ。余計な「ヒレ」を付けるからには、それなりの理由があるのだろう。素人なりに考えてみた。フィンの類は空気の流れを整えたり、曲げたりするのに使われる。その昔、グライダーの設計に失敗して垂直尾翼の面積が足りず、作り直すのが面倒で胴体下側に付け足してゴマカシタ覚えがある。実機にも、そうした例があったようだ。

767の「ヒレ」は、画像を眺めても特に角度が付いているふうでもないし、かなり薄いようだ。佐貫亦

男先生の御著書に、「胴体とエンジン・ナセルの干渉ウンヌン...」という記述があった。757には見当たらないところを見ると、そのへんに秘密があるのでは？とも思える。その後、胴体とエンジン・ナセルの干渉という拙い推理を裏付けてくれそうな写真を発見した。ドイツの某航空会社HPに737-300を正面から撮った写真があって、「ここにもちゃんと「ヒレ」が付いていたのだ。ご存知のように、737-300は



大直径エンジンを装着した機種で、太い胴体とエンジンの配置などが767に似ている。

もちろん、細いエンジンの初期型737には「ヒレ」は付いていない。そもそも「干渉」ということ自体がよく理解できないから、これ以上の推理は無意味なのだが、なぜ767にだけあって757には無いのか？737にも付いているからには、ワイドボディ機特有の現象があるのだろうか？無いとどうなるのか？ちなみに、同じようなエアバス系のワイドボディ機には見当たらないようだ。一般的な資料には、小さなフィンのことなど載っていきそうにないし、そもそも誰に訊ねればいいのか？が分らない。ボーイング社のHPにメールを送れば

答えてくれそうな気がするのだが、日本語では返事をくれないうら（当然、筆者は、英語は完璧にダメだ）。国内の航空会社にも、ちょっと訊きづらい雰囲気がある。どなたか、あの「ヒレ」がなぜ付いているのか理由をご存知の方が居られたら、ぜひご教示願えないだろうか？「地下鉄はどこから入れたか？」ではないが、当分の間アタマの片隅にひっかかっているような「問題」だ。それにしても世紀の大事件映像を見ながら、ついエンジン・ナセルに目が行ってしまう自分には、ほとほと呆れている。××は死んでも治らない...というのは、本当だナ～。

## 編集後記

今回は頭が腐って絶不調のママ、今月号の締切とな！真にシンドイ。幸いにして常連のドクター石井をはじめ、倉田文士やフリーライターの片岡氏が原稿を送ってくださり、何とか格好がつくようになりほっとしているところです。私の駄文も止めると言う人も居ますが、意外と多くの方々を読んで下さっているようで感謝です。しかし、その為に私はさらに頑張ろうなどと考える正常な人間ではないので、これまでと変わらずの駄馬のママでいこうと思っています。

さて、田んぼがダメになる5月から夏が終わるまでどう過ごすかは、長いヒコーキ暮らしの経験からそれぞれ決まって様です。この間、何もしない人、飛ばしは完全にお休みし製作に勤しむ人、公園で小型機を飛ばす人、どんなに遠くても広い場所まで飛ばしに行く人等々に別れます。千葉は幸いにして甘田以外にも飛ばす場所があるので、私の場合、気が向くと遠出して憂さをはらします。ウイーデーは大抵近かくの公園で小型機を飛ばしているの、仲間や観客も増え飛ばさずにダベツたりも出来ます。同じ公園には幼稚園や保育園のお尻モコモコの子供もたくさん来るので、彼らを見ているだけでも暇がつぶれます。先月末、その学童保育のグループから紙飛行機教室を頼まれ、今月、仲間を募って押しかけます（ア・これホームページに載せます）。そのおかげで綺麗なおばちゃん達とも親しくなれるし、ヒコーキは楽しいですね。本当は飛行機製作に注力できれば最高だと思いますが、飛ばさないとストレスが溜まるし、年を取ると作るだけの根気がありません。あ・ビールが美味しい。

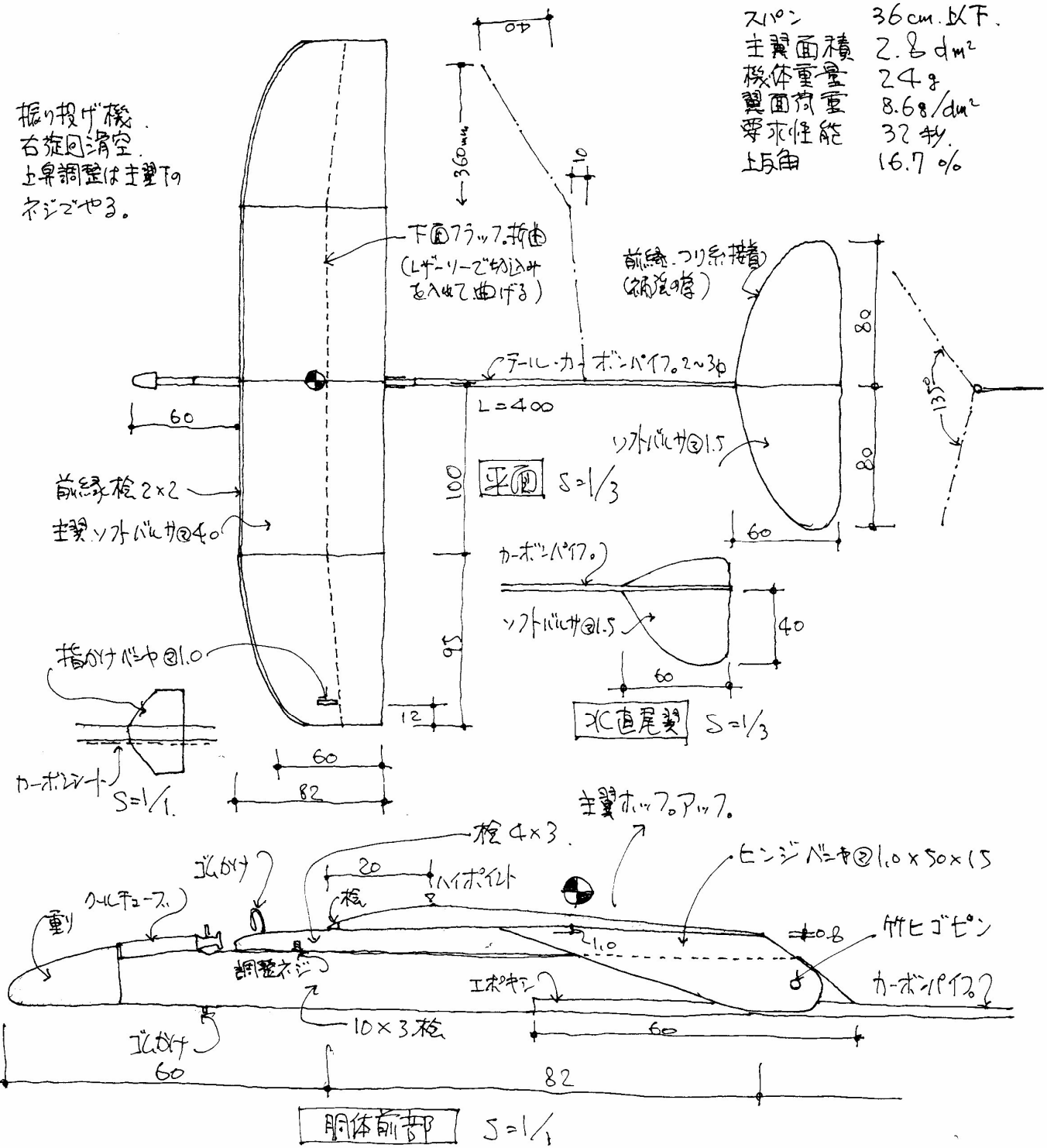


HLG-B. 振り投げ競技機 (UHLG)

2008.6. by H. Hirao.

振り投げ機  
右旋回滑空  
上昇調整は主翼下の  
ネジでやる。

スパン	36cm.以下.
主翼面積	2.8 dm <sup>2</sup>
機体重量	24g
翼面荷重	8.6g/dm <sup>2</sup>
要求性能	32秒.
上昇角	16.7%



コントロールの使い方. 始めはゴムをウインドリムに引っかけて、コントロールを目いっぱい強めに投げる。動きが目で見える様早く動かす。動きがなめらかになると、此の強さを弱くして使う事。